

本市卸売市場の今後の方向性について

1 4/26 青果部会での主な意見等

- (1) 販売に加え集荷まで一括対応できる卸売市場の必要性が更に加速される想定は、青果市場の必要性の加速という意味でもあり、明るい展望である。
- (2) 商品の選別や洗浄等、生産者の出荷時の負担を減らし、少量出荷にも対応できると良い。
- (3) 地域農業振興の観点からも、出荷量を増やすために集荷を行う卸売業者の取組への公的支援は大事である。
- (4) 個人商店の販売力が低下傾向にあり、個人商店は安く仕入れたい。
- (5) 宅配や市場外流通等の流通形態の変化に、市場関係者がどう対応するかが課題である。
- (6) 従来の消費者への食の安定供給の他に情報発信機能等、市場の役割が変化している。
- (7) 車で行く大型量販店と歩いて行ける身近な買物先の両立等、本市の買い物のスタイルとして提案ができると面白く、そこに市場がどう関わっていくかを考えることが重要である。

2 青果部会から「今後の青果市場の方向性について」の報告

- 1 本青果市場は、本市消費者への食の安定供給に資する消費地市場として、また、市内農業振興の観点から市内生産者の出荷先である産地市場としても、重要な拠点として必要である。
- 2 生産者の高齢化や労働力不足、流通構造の変化等の課題に対し、市場に求められる機能や役割が変わってきている現状を踏まえ、今後の青果市場のあり方をさらに検討していく。

3 4/26 水産部会での主な意見等

- (1) 今後、市場外流通の傾向が強まり産地市場間の競争は一層激しくなる。
- (2) そのような中、卸売市場の本来機能である、良い物には高い値段をつける等の価格形成機能は、生産者にとっても引き続き重要と考えられている。
- (3) 買受人に評価の高い小田原の魚を、市民が享受（量販店等で購入）できる卸売市場としたい。
- (4) 県内他市場で仕入れている市外の買受人の金額が大きいため、これを戦略的に取り込みたい。
- (5) 統合せず、青果・水産を完全に分離して検討すると結論を出さないと、水産市場の再整備自体がますます遅れてしまう。
- (6) 再整備事業における市民負担（一般会計からの繰入等）軽減の視点は、依然、重要な課題である。
- (7) アンケート結果により、産地市場（小田原の地魚）は本市場のブランド力と認識するが、消費地市場の役割も依然大きく、消費者（市民）に対してのアピールが不足している。
- (8) 水産市場単独再整備を早期に実現するため、「検討する」では弱く、「目指す」としたい。
(事務局案を修正されたい)

4 水産部会から「今後の水産市場の方向性について」の報告

- 1 水産市場は、多くの市場関係者が将来的にも現在地での立地を望んでいることを第一に、引き続き、神奈川県西部3市9町の約53万人の食を支える消費地市場としての役割を果たしていくとともに、小田原の魚のブランド力を支える漁港至近の鮮度イメージ、すなわち地元水揚品（地魚）の水揚機能を活用した産地市場としての強みを生かし、現在地を基本に検討を進めるべきと考える。
- 2 新市場整備までの間、市場関係者の安全性確保のため、老朽化が進む既存施設の適切な維持管理を行いながら、水産市場単独での早期の再整備を目指すべきと考える。

